

年 頭 の ご あ い さ つ



公益社団法人
鹿児島県看護協会 会長

田 畑 千穂子

新しい年を迎え、皆様に謹んでお慶び申し上げます。

令和元年度は、西日本豪雨、北海道地震、台風19号被害など、各地で自然災害に見舞われました。被災地の皆様には、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、2020年は東京五輪を迎えます。鹿児島では“燃ゆる感動かごしま国体”が県内各地で開催されます。正々堂々と戦うスポーツの世界では“スポーツマンシップ”が大切とされています。医療界ではチーム医療の推進が求められ、多様な働き方や職種を超えて働きやすい職場づくりにはチーム医療の基本となるパートナーシップが鍵となるのかもしれません。

また、2020年はナース生誕200年でもあります。日本看護協会は「看護の力で健康な社会を！」を掲げ、2019年5月に看護系30団体で構成される「Nursing Nowキャンペーン実行委員会」を厚生労働省と連携して発足させ、日本全国でのキャンペーンの普及に取り組んでいます。本会も本県の看護関係団体とともにキャンペーンの普及に取り組ん

でおります。その一つとして、令和元年11月14～15日に第50回日本看護学会 - 慢性期看護 - 学術集会を鹿児島市民文化ホール・ホテルウェルビューかごしま・鹿児島サンロイヤルホテルの3会場で開催いたしました（写真）。演題数が423（口演：126，示説297）題，参加者は3,148人でした。来賓に三反園 訓鹿児島県知事をはじめ各職能団体の代表者の方々をお迎えし，超少子高齢化社会を担う看護職に熱いメッセージをいただきました。そして，160人を超える協力員のご支援によりスムーズな運営につながりました。ご理解・ご協力をいただきました各施設の管理者，関係者の皆様に心から感謝申し上げます。本会は，この鹿児島の地で慢性期看護を語り合えたこと，鹿児島の看護の未来に真摯に向き合えたことを財産に，これからも，看護の質向上，人材育成，新たな看護サービスの提供等に努めてまいります。

結びに，本会は関係団体とともに県民の安心で安全な医療の提供に向け，今年も，重点事業等に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

